

児童が身に付けた力を活用し、 児童に身に付けさせたい力を確かめることができる 問題（適用題）に取り組んでみませんか？

2020年度から全面実施となる小学校の新学習指導要領では、汎用的な能力の育成が重視されています。国語科では、児童が言葉による見方・考え方を働かせながら、育成を目指す資質・能力を身に付けることができるようにするための授業づくりが一層求められています。

一方で、佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から見える小学校国語科の課題として、文章の内容を的確に捉えることや叙述を基に自分の考えをまとめることが挙げられます。

新学習指導要領や小学校国語科の課題から、児童が授業で学んだことを他教科や他単元で活用できるようになることが必要であり、教師が活用する場面を設定することが必要であると考えます。

そこで、本研究では、児童が単元を通して身に付いた力を活用することができ、教師が児童に身に付けさせたい力を確かめることができる問題（適用題）を作成することにしました。



適用題とは？

本研究では、適用題について、「児童が単元を通して身に付いた力（指導事項）を活用して解く問題」としました。適用題は、単元で行った言語活動を教材文を変えて取り組ませることで、力が身に付いたのかを確かめます。

例：（単元での学習）「お手紙」（光村図書2年㊦）を使って、音読劇の台本を作成する。

→（適用題）「スイミー」（光村図書2年㊧）を使って、音読劇の台本を作成する。

適用題の例はこちら

click

適用題を作成する手順

ステップ
1

- ・ 児童に身に付けさせたい力を確認する（学習指導要領・教科書）。
- ・ 身に付けさせたい力を付けるためにふさわしい言語活動を設定する。

ステップ
2

- ・ 学習課題を設定する（指導事項・思考操作・言語活動）。
- ・ 単元の指導計画を立てる。

ステップ
3

- ・ 適用題の作成

授業実践

適用題の実施

授業の振り返り

→次の単元へ生かす